



図4



図5



那珂川病院 フットケア外来(予約制)
 <受付時間> 月曜日 午前・午後
 <お問い合わせ> TEL:092-565-3531
 福岡市南区向新町2-17-17

**福岡大学病院 末梢動脈疾患外来
 ハートセンター(循環器内科・心臓血管外科)外来**
 <受付時間> 火・金曜日 午後(循環器内科)
 火・木曜日 午前(心臓血管外科)
 <お問い合わせ> TEL:092-801-1011(代表)
 福岡市城南区七隈7-45-1

Prof. Saku's Commentary
 戦時中、傷口に蛆がわいた方が傷の治癒が早い事が経験的に知られていた。それを科学的に応用したのが、マゴット療法である。現代社会にはサイエンスのシーズがいくつものところがあるが、そこを問題視するところが重要である。

Vascular Street

マゴット療法：ウジ虫が皮膚潰瘍を治す



福岡大学医学部 心臓・血管内科学
教授 朔 啓二郎 先生



社会医療法人 喜悦会 那珂川病院 血管外科
部長 竹内 一馬 先生
(NPO法人 足もと健康サポートねっと 代表)

はじめに

足は第二の心臓、健康の源ともいわれ、元気に歩けることは、高齢者の転倒予防や骨密度の維持、心身の健康維持、心臓血管病(脳梗塞、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症)の発症予防などにとっても大切なことである。現代社会は糖尿病による下肢切断が増えており、下肢を温存可能な治療法の一つとして、無菌ウジ虫を用いた壊疽治療「マゴット療法」が最近注目されている。「ウジ虫が足の病気を治す?」、びっくりされる方も多いかもしれないが、那珂川病院の血管外科(循環器科)でフットケア・フットウェア外来を開設し、ご活躍されている竹内一馬先生にお話をうかがった。

竹内 当院では、フットケア診療の一環として、すでに多くの症例に対してマゴット療法を行っています。

「マゴット療法」は、ウジに壊死組織を食べさせて壊疽や治りにくい傷(難治性潰瘍)を治療する方法です(図1)。治療対象となる患者さんは、糖尿病性壊疽・難治性潰瘍・静脈うっ滞性潰瘍・褥瘡などです。ウジが腐った人間の組織を食べて、汚染し感染の及



図1

んだ組織をきれいにし、治癒を促してくれる事は古くから人々に認識されていました。オーストラリアの先住民やビルマの伝統医が数千年前からこの治療を行っていた事が記録にあります。治療は疼痛を伴わず、また副作用もきわめて少ないために、患者さんの負担もかなり少ない。しかし、第二次世界大戦後、外科手術の発達、各種抗生物質の登場やそれに伴う感染症の減少等によって、本治療法は人々から急速に忘れ去られていきました。1990年代になり、抗生物質の乱用により抗生物質抵抗性の感染性潰瘍が出現し、また以前に増して糖尿病、動脈硬化症、虚血等の潰瘍の原因となる疾患、しかも重症化する症例が増えてきました。これに伴い難治性の潰瘍が増加したため、その治療法の一つとして、本治療法が再び脚光を浴びるようになりました。

マゴット療法は、世界中の約2000施設で取り入れられている治療法であり、イギリスでは1995年から健康保険適応の治療として認可を受けています。安全基準にきびしいアメリカでも2004年にFDA(食品医薬品局)が医療機材として許可しています。日本では未だに保険での診療ができず、自費診療でしか治療を受けられないのが現状です。

国内では、ツガサキ病院 心臓血管外科の三

井秀也先生(前 岡山大学医学部 心臓血管外科)が本治療を導入し、2005年4月からジャパンマゴットカンパニー (<http://www.japan-maggot.com/index.html>)という企業を立ち上げて、佐藤卓也社長と無菌ウジ虫の国内生産を開始しています。現在、国内では当院も含め約100施設で施行可能となつてはきましたが、保険適応がなく普及していません。すべてが自費となるために、治療費が高額(症例により異なりますが、1回約5万円～10万円 これを6～8回は繰り返す、さらに入院費用も自費)となってしまうのです。

これが国内の現状ですが、2011年1月に一般社団法人 ジャパンマゴット治療教育研究推進協会 (<http://jmt-f.org/about.htm>)が発足しました。私も顧問の一人に加わっているのですが、本協会のシステムを適応すると、患者さんの経済的な負担を軽減して治療を受けることが可能になります。当院(那珂川病院)は九州地区の窓口病院であり、このシステムを利用して治療を行っています。詳細は、当協会のホームページをご参照いただきたいと思いますが、年額 105,000円で治療回数に関係なく、保険を適応した入院が可能です。治療可能かどうかは、当院のフットケア外来にご相談ください。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> 副作用が少ない 麻酔を必要とせず、疼痛が少ない 他の治療と併用可能 禁忌がない 耐性菌(抗生剤に対して)をつくらない 究極のエコ治療である 	<ul style="list-style-type: none"> 保険適応とらない 効果がでない症例もある <p style="text-align: center;">↑</p> <p>普及できない原因の一つ</p>

表1

朔 マゴット療法の長所と短所を表1に示していただきましたが、副作用が少ないのが良いですね。世界中では、糖尿病のために約30秒に1肢の割合で足が失われてます。最近では、約20秒に1肢に増加したとも言われています。日本国内でも、1年間に約3000件以上の壊疽による足切断の手術が行われています。この治療が全てではありませんが、他院で足切断を宣告された患者さんでもトライする価値があるのでしょうか？

竹内 切断を回避しうる治療の選択肢のひとつとして九州在住の患者さんのニーズにこたえられる

ようにしたいと願っています。

2011年4月に那珂川病院に赴任してから、9症例のべ34回のマゴット療法を施行し、福岡県第一位の実績を誇っており、九州医療センター、福岡赤十字病院、福岡大学病院、その他、市外の施設からの症例を引き受け、救肢に貢献しています。

さらには、マゴット療法と高圧酸素療法(HBO)や持続陰圧吸引療法(VAC療法)と組み合わせることで、さらに治療期間の短縮や、治癒率が向上してきています。

写真は、当院での治療経験です(図2～図5)。



図2



図3